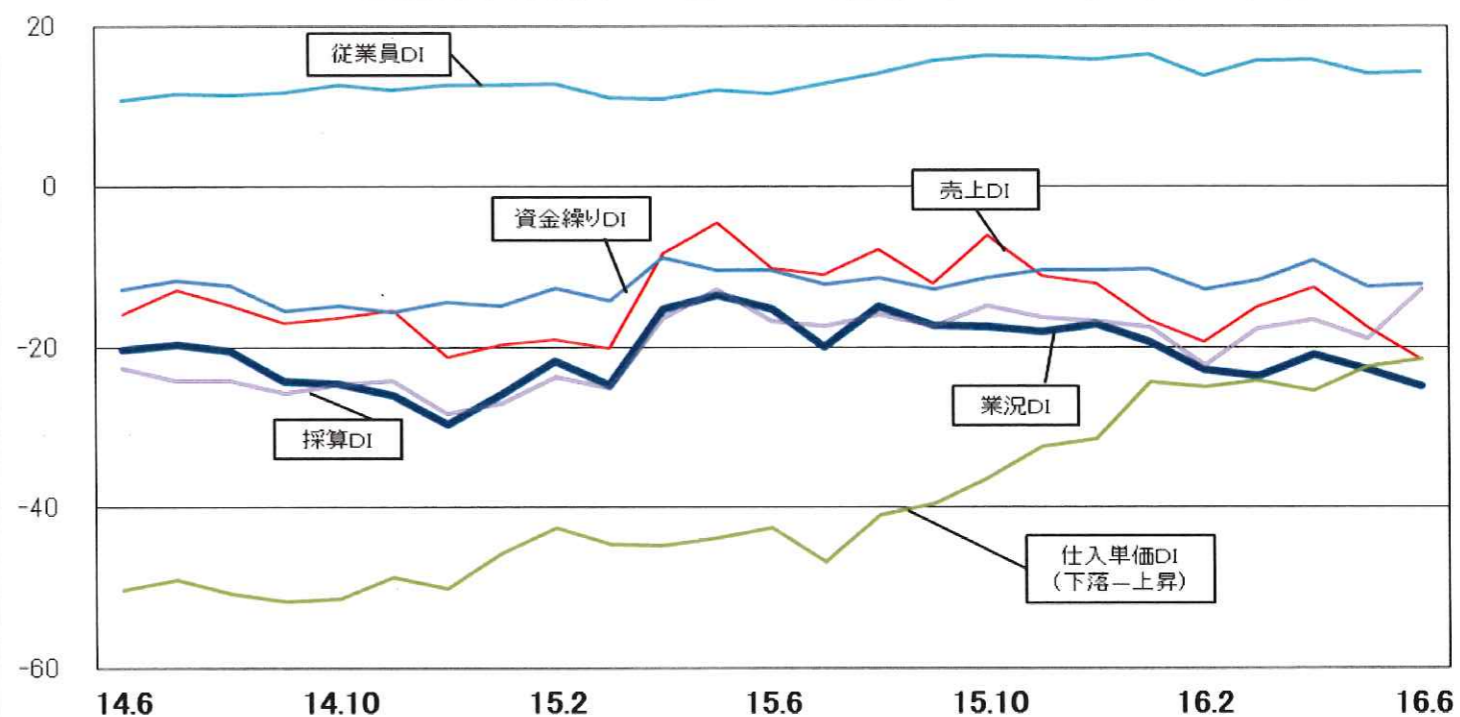


業況DIは、悪化。先行きも慎重な見方続き、ほぼ横ばいの動き

ポイント

- ▶ 6月の全産業合計の業況DIは、▲24.8と、前月から▲2.0ポイントの悪化。なお、本調査期間は英国のEU離脱の決定前であることに留意が必要。人手不足や人件費の上昇が足かせとなる中、消費低迷の長期化や円高進行による受注減に加え、株価・為替の不安定な動きが中小企業のマインドを下押ししている。堅調な観光需要や、原材料価格の下落、春から値上がりしているものの依然として低い水準にある燃料費の恩恵を指摘する声は聞かれるが、中小企業の景況感は足元で弱い動きがみられている。
- ▶ 先行きについては、先行き見通しDIが▲24.6(今月比+0.2ポイント)とほぼ横ばいを見込む。夏の観光需要の拡大や、猛暑予測から飲料品や家電製品など夏物商品の販売増加、消費増税の再延期による消費者マインド改善を期待する声は聞かれる。他方、金融市場の不安定な推移などによる、インバウンドを含む消費の一段の悪化や設備投資の減少に対する懸念のほか、人手不足の影響拡大など、景気の不透明感が増す中、中小企業においては、先行きへの慎重な見方が続いている。

LOBO全産業合計の各DIの推移(2014年6月以降)

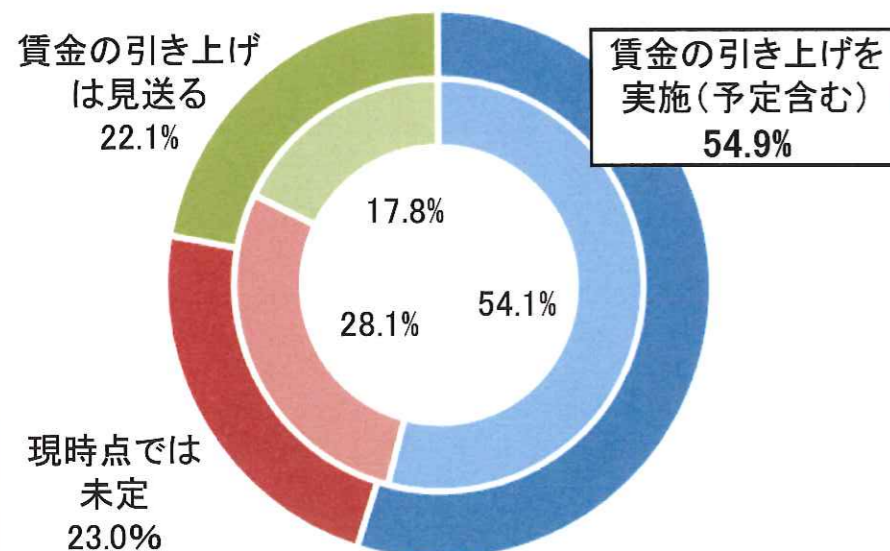


2016年度の所定内賃金の動向

- ▶ 2016年度に賃金の引き上げを実施した企業(予定含む)(全産業)は54.9%と、2015年6月調査と比べ、ほぼ同水準。他方、「現時点では未定」は23.0%と5.1ポイント減少し、「見送る」は、22.1%と4.3ポイントの増加

◆2016年度の所定内賃金の動向(全産業)

※円グラフの外側が6月調査、内側は前年同月調査



<業種別の割合>

- 建設業 : 59.2%
- 製造業 : 63.9%
- 卸売業 : 59.9%
- 小売業 : 42.1%
- サービス業 : 52.1%

<賃金引き上げの内容>

- 定期昇給 : 83.1%
- ベースアップ : 29.5%
- 手当の新設・増額 : 11.4%

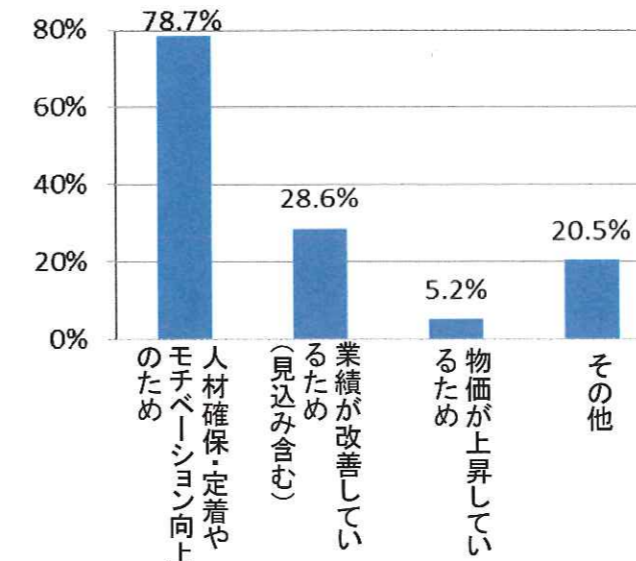
※賃金を引き上げる予定の企業が対象、複数回答

[中小企業の声]

- ▶ 従業員のモチベーションの向上のためにベースアップを実施し、さらに人材の定着を目的に工場内の空調整備など、職場環境の改善にも努めている (本庄 自動車部品製造業)
- ▶ 従業員の定着を目的に他社以上に賃金を引き上げたいが、夏物衣料の売上が伸び悩んでいるため、賃上げを躊躇している (五泉 衣料品卸売業)
- ▶ 昨年は外国人旅行者により収益を確保できたため、賃上げを実施。今期は円高に伴い外国人旅行者が減少しており、先行きに不安があるため賃上げを見送る (恵那 ホテル業)

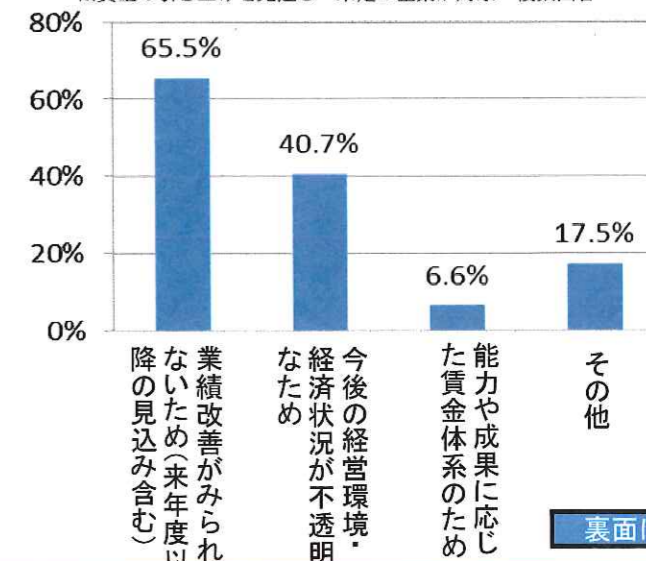
賃金を引き上げる主な理由

※賃金を引き上げる(予定含む)の企業が対象・複数回答



賃金の引き上げを見送る・未定の主な理由

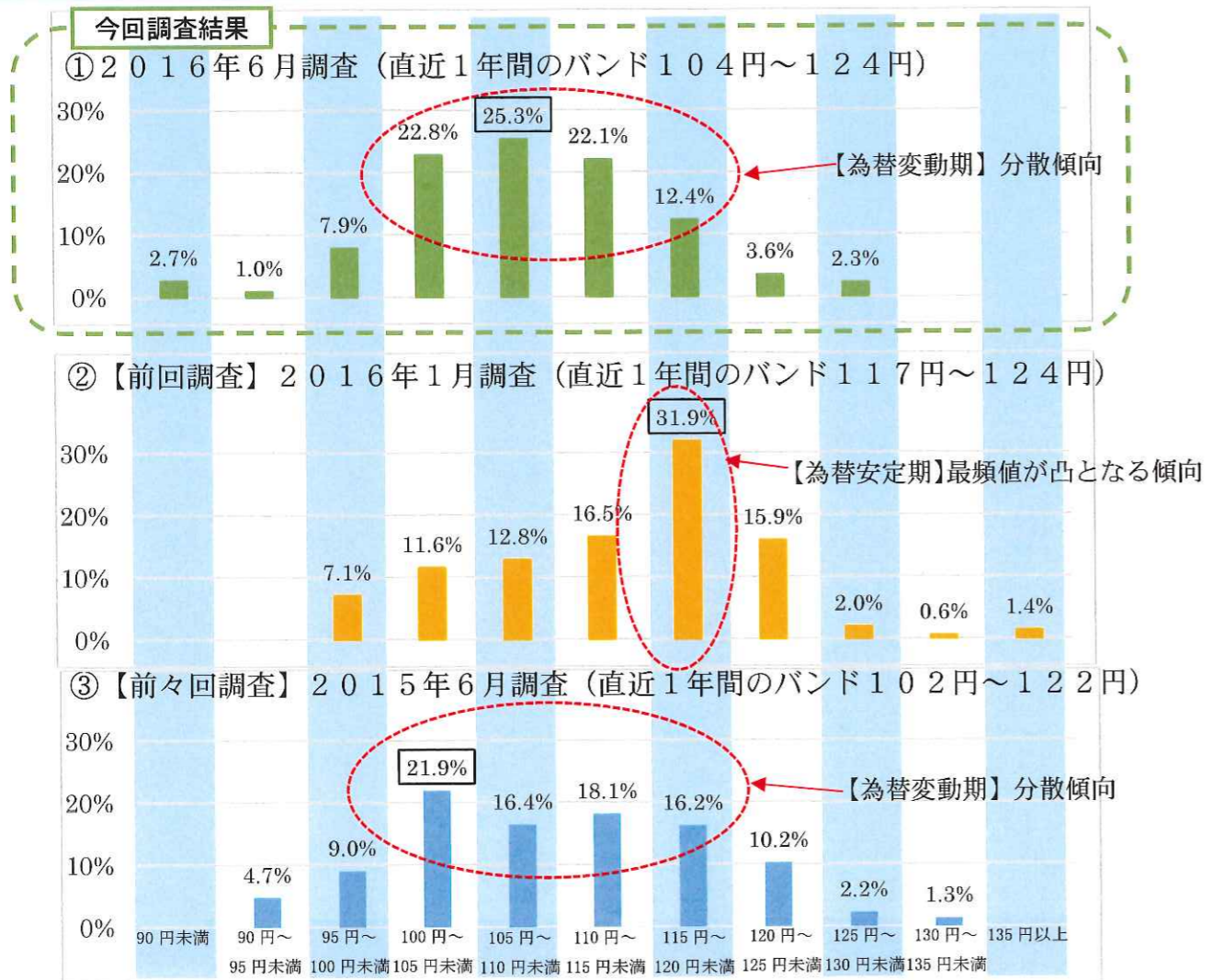
※賃金の引き上げを見送る・未定の企業が対象・複数回答



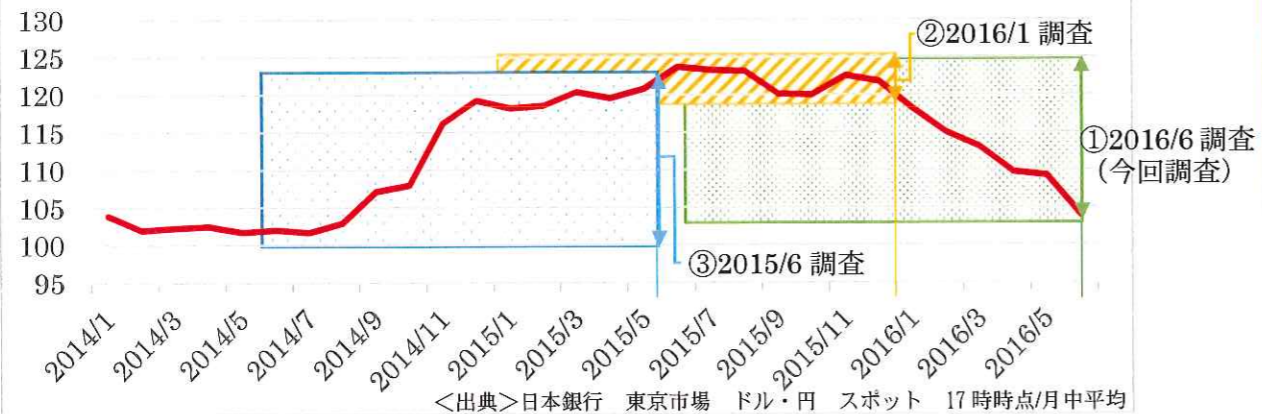
裏面に続く

経営上望ましい為替水準

- ▶ 自社の経営上望ましい為替水準（全産業）は、「105円～110円未満」が25.3%と最も多く、「100円～105円未満」が22.8%、「110円～115円未満」が22.1%、「115円～120円未満」が12.4%と分散した。
- ▶ 望ましい為替レートの推移を見ると、調査時点前の一定期間における為替水準が安定している場合には特定のレートに収斂し易く、変動している場合には分散し易い傾向が見られる。



＜参考＞ドル・円相場の推移（単位：円）



【中小企業の声】

- ▶ 外国人旅行客の来店は増加しているものの、このところの円高により一人当たりの消費額は減少し、全体として昨年の売上を下回り始めている（京都 百貨店）
- ▶ 為替相場が不安定なため、取引先からの受注量の変化が大きくなり、計画的な設備投資ができない（佐世保 機械部品加工業）